＜美しい東北の実現＞

重点事項：東北らしい自然環境との共生

主な目標

①東北の豊かな自然・歴史・文化などを実感できる個性的なまちづくりや観光振興・交流拠点の整備を行います。
②生態系の保全などに配慮しながら、自然との共生・調和を目指した社会資本整備を図ります。
③地域の特性を活かして、利用しやすい親水空間の整備を行います。
④自然の豊かさを実感できるよう、流域環境・海域環境の保全及び改善を図ります。

目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・東北の豊かな自然・歴史・文化などを実感できる個性的なまちづくりを進め、観光振興を支援します。

（具体箇所例）

直轄：一関遊水地事業
一般国道4号 平泉バイパス
北上川水系直轄総合水系環境整備事業（平泉町）　（別冊P. 50）

補助：ウォーキング・トレイル事業（平泉町）
毛越寺（もうつうじ）線身近なまちづくり支援街路事業（岩手県）

●岩手県平泉町における取り組み

平泉の歴史・文化を活かした地域振興を支援

歴史文化に満ちた水辺空間を活かして船着場や親水護岸等を整備



JR平泉駅と毛越寺を結ぶ周辺景観に配慮した道路空間の整備



平泉の歴史文化施設を巡る自然景観に配慮した木道等を整備





▼第三者による委員会の提言を受けて自然景観の保全に取り組んでいます



貴重な遺産を守るため計画を変更

堤防と国道を一体的に整備
（河川）一関遊水地事業
（道路）一般国道4号 平泉バイパス



・東北の豊かな自然環境を活かした都市公園の整備により、広域的な交流拠点の形成を目指します。

（具体箇所例）

直轄：草原エリア整備事業　国営みちのく杜の湖畔公園Ⅱ期地区　（別冊P. 54）

補助：都市公園整備事業　北野田（きたのだ）公園（秋田県秋田市）　（別冊P. 55）

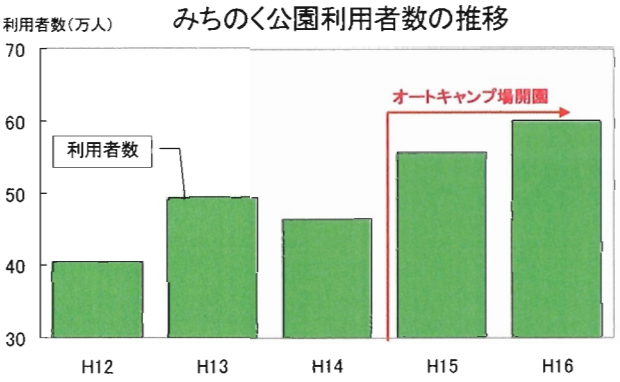
●国営みちのく杜の湖畔公園整備による交流拠点の形成



▲多くの家族連れで賑わう「みちのく公園」



▲整備を進めている「草原エリア」の利活用イメージ

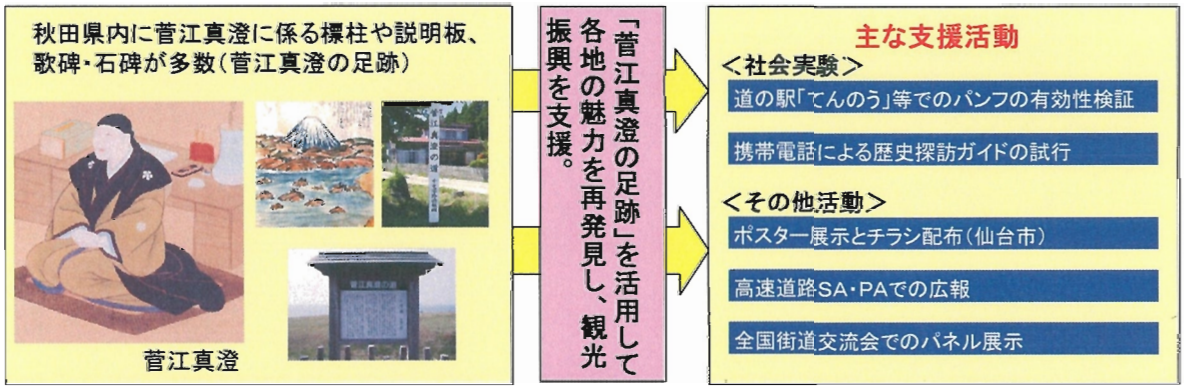


▲仙台都市圏の潤いエリアとして、オートキャンプ場の開園や各種キャンペーン等を実施し、着実に利用者数を拡大

・社会資本を積極的に利活用し、観光振興や地域活性化など地域の取り組みについて支援を進めます。

（取り組み例）

●菅江真澄（すがえますみ）の足跡と秋田再発見プロジェクト



▲東北各地に足を運びその土地々の風景画や見聞を記した江戸時代の紀行家「菅江真澄」の足跡を、秋田県内の観光資源を含めて広くPRすることで、地域の魅力を再発見し、観光振興を支援。

●みなとオアシス制度による「みなと」を中心とした交流の推進　（別冊P. 51）



▲みなとにおいて、人々が集い、憩い、潤える空間を「みなとオアシス」として認定し、住民参加による地域活性化の取り組みに対して、情報発信等により支援（H17.8現在、東北では7地区を認定）

・地域の特性を活かした利用しやすい親水空間の整備を推進します。

（具体箇所例）

直轄：本合海（もとあいかい）地区水辺プラザ整備事業（最上川水系直轄総合水系環境整備事業）





▲本合海で開催された環境芸術祭。豊かな自然と水辺空間を活かして毎年開催

▲豊かな自然環境を活かした水辺空間整備により、様々な活動が期待される

・生態系の保全に配慮しながら、自然との共生・調和を目指した社会資本整備を行います。

（具体箇所例）

直轄：名取川河川改修事業（藤塚地区）

一般国道２８９号　甲子（かし）道路

●名取川河川改修事業において、貴重な自然環境等を考慮して堤防計画を見直し

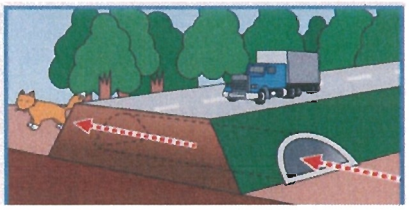




▲ヒヌマイトトンボ：体長3cm前後。河口近くの海水の影響があるような場所に生息。環境庁レッドデーターブック絶滅危惧種に指定。

▲浸水被害を受けている藤塚地区の治水対策（堤防整備）にあたり、貴重な自然環境の井土浦干潟の環境保全と貞山堀の歴史と自然が調和した景観を重視し、堤防計画を変更し事業を進めています

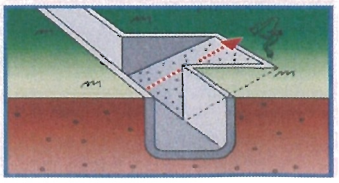
●一般国道289号甲子道路におけるエコロードの取り組み



▲大型の動物でも道路の反対側に行けるように、道路の下に動物の通り道を整備した例



▲カモシカ等の大型ほ乳類が通れる横断構造物



▲小動物が這い出せるような構造にした側溝の例



▲脱出可能なスロープ付き側溝

・侵食が著しい海岸において、自然環境に配慮した対策を行うとともに、併せて自然豊かな海辺に親しめるよう整備を進めます。

（具体箇所例）

補助：大湊（おおみなと）港海岸侵食対策事業（エコ・コースト※事業）　（別冊P. 53）

※エコ・コースト事業：海岸保全施設の整備に当たり、施設の配置や構造等に工夫を行うことにより、生態系や自然景観等周辺の自然環境に配慮した海岸整備を行う。

●大湊港海岸侵食対策事業（エコ・コースト事業）





▲大湊湾は日本最大のコクガンの越冬地と言われており、海岸防護と併せて「エコ・コースト事業」の導入により生態系など自然環境にも配慮した整備を行います

▲海岸防護対策と併せ、地域住民が海と親しめるよう階段護岸等も整備

・魚道の設置や淵・礫河原の再生などを図り、河川本来の自然を再生します。

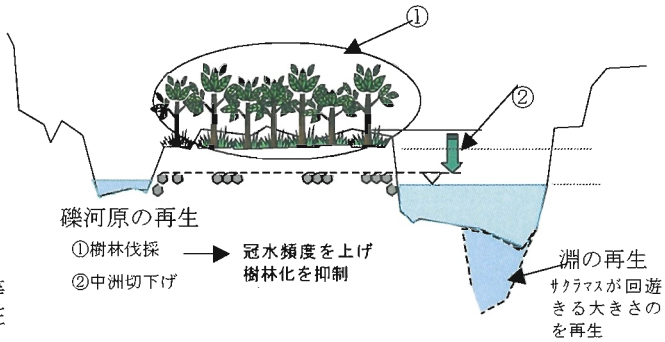
（具体箇所例）

直轄：赤川自然再生事業（赤川水系直轄総合水系環境整備事業）

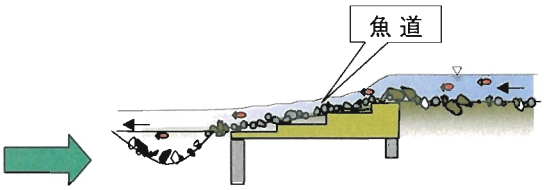
●赤川における自然再生への取り組み



▲乾燥・陸地化することにより、外来種等が繁茂した河川を、良好な礫河原の存在した昔の姿に戻します。







魚道を設置することで、魚の遡上が可能

▲魚が移動するのが困難な構造物を改良することにより、魚の棲みやすい環境を取り戻します。